

新南陽の景況感

調査概要

調査対象期間 2023年10月～12月（現状）における景況感、2024年1月～3月（今後）における景況見通し

調査対象 新南陽地域の企業71社

調査方法 商工会議所経営指導員等職員の巡回相談時に調査票回収

調査項目 「業況」、「売上高」、「採算」、「仕入単価」、「従業員」、「設備」、「資金繰り」

産業全体

全体の業況D-Iは低下、一部の業種で売上D-Iは回復しているが、物価高が重荷となり全体では低下となった。先行き見通しの業況D-Iはさらに低下を示し、売上高や採算を不安視する状態が続く。

新南陽地域の2023年10月～12月期の業況D-Iの全産業合計値は▲42.9%となり、前期調査（7月～9月期）よりもマイナス幅が17.9ポイント拡大（悪化）した。また、全業種で仕入単価D-Iは▲100%（全事業者が悪いと回答）されており、物価高騰の影響

は続いている。全国の「第174回中小企業景況調査（中小企業基盤整備機構）」全産業の業況D-Iのマイナス幅は6.1ポイント拡大（悪化）している。新南陽地域の今後3カ月先行き見通しの、全産業合計値のマイナス幅も拡大（悪化）する見通しとなっている。全国的には忘年会等の年末需要が増加した飲食・宿泊業を中心に改善したが、エネルギー価格の高騰や人手不足に伴う人件費の増加等、コスト増は業種を問わず続いている。深刻な人手不足や適正な価格転嫁への対応等、経営課題は多く中小企業の対応は、力強さを欠いている。（商工会議所LEOBO調査12月）

DI（景気判断指数）値とは？

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナス値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率をしめすものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がり意味する。

DI = (増加・好転などの回答の割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化)

売上：(増加) - (減少)

	全体		卸・小売業		製造業		サービス業		飲食・宿泊業		建設業		運輸業	
	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し
業況	-42.9	-70.4	-75.0	-80.0	-20.0	-100.0	-50.0	-100.0	60.0	0.0	-100.0	-100.0	-100.0	-50.0
売上高	-29.4	-62.5	-60.0	-80.0	-20.0	-100.0	-20.0	-100.0	60.0	0.0	-20.0	-50.0	-100.0	-42.9
採算	-56.3	-87.1	-60.0	-80.0	-33.3	-100.0	-60.0	-100.0	50.0	-50.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0
仕入単価	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0
従業員	76.0	82.6	0.0	0.0	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	100.0	100.0	100.0	75.0	75.0
設備	53.8	38.5	100.0	100.0	60.0	60.0	100.0	100.0	0.0	0.0	-100.0	-33.3	-33.3	-33.3
資金繰り	-60.0	-71.4	-66.7	-75.0	-100.0	-100.0	0.0	-100.0	0.0	-100.0	-100.0	-50.0	-20.0	-20.0

※前年比…2023年10月～12月と前年同月の比 見通し…今後3ヶ月（2024年1月～3月）の見通し

会員の声

【卸・小売業】

- ◆新型コロナウイルスが5類になって、人の動きも少し良くなっているが、原油価格高騰等により、商品によっては単価が上昇し、購買意欲は依然として低い。又、取引先の卸問屋の廃業、倒産も相次いでいる。
- ◆課題は、それぞれに様々あると思いますが、解決の糸口が見えているはず。これからは、決断と実行をどれだけ早くできるかが大切と考えます。インボイス制度、電子帳簿保存法は廃止又は改善を求めます。
- ◆個人経営者店としていかに商売に対するモチベーションを高く保つかが私の試練です。

【製造業】

- ◆最大顧客である鉄鋼・ステンレス業界の生産量や販売量が回復すれば収益性など、経営環境は劇的に改善すると期待している。
- ◆原油価格高騰による値上げがとまらない。
- ◆完全週休二日制を導入

【サービス業】

- ◆生成AIの活用等により過去のサービスが不要になり、新しいニーズが生まれている。変化に対応することが必要。
- ◆原油価格高騰によりガソリン代の値上がり利益を圧迫している。
- ◆従業員の入れ替わりでお客様が減少した

【飲食・宿泊業】

- ◆お客様の動きが活発になりつつある。
- ◆仕入高、人件費の高騰が気になる

【建設業】

- ◆原油価格高騰、ウクライナ情勢、人手不足
- ◆資材特にケーブル類が入手困難

【運輸業】

- ◆仕入高、最低賃金などコスト面での上昇をまかないきれしていない。2024年問題についての対策が遅れていることが大きな課題
- ◆物価高騰により、利益減。人材獲得ができず、受注トライもできない。インボイス制度により事務量増。
- ◆人員不足。物価・人件費が高騰するが、運賃が上がらず厳しい。税金関係など支払いも厳しい。

るが顧客の動きは活発化しているとの報告有り。

【建設業】

売上高D-I、採算D-I、仕入単価D-I、資金繰りD-Iは▲100%（全事業者が悪いと回答）。今後3カ月の先行き見通しは上記4項目に加えて設備D-Iもマイナス幅が拡大（悪化）して▲100%（全事業者が悪いと回答）する見込み。材料の高騰、人手不足や資材の入手困難等との報告有り。

【運輸業】

業況D-I、売上高D-I、採算D-I、仕入単価D-Iは▲100%（全事業者が悪いと回答）。今後3カ月の先行き見通しで業況D-I、売上高D-I、資金繰りD-Iのマイナス幅は縮小（改善）する見込み。マイナス幅が拡大（悪化）する項目は無い。2024年問題についての対策が遅れていることが大きな課題との報告有り。

ス幅も拡大（悪化）する見通しとなっている。全国の今後3カ月の先行き見通し「第174回中小企業景況調査」の全産業合計値のマイナス幅は縮小（改善）する見通しとなっている。

全国的には忘年会等の年末需要が増加した飲食・宿泊業を中心に改善したが、エネルギー価格の高騰や人手不足に伴う人件費の増加等、コスト増は業種を問わず続いている。深刻な人手不足や適正な価格転嫁への対応等、経営課題は多く中小企業の対応は、力強さを欠いている。（商工会議所LEOBO調査12月）

【卸・小売業】

業況D-I、売上高D-I、従業員D-Iのマイナス幅は拡大（悪化）、採算D-I、従業員D-I、設備D-I、資金繰りのマイナス幅が縮小（改善）している。

今後3カ月の先行き見通しでは業況D-I、売上高D-I、採算D-I、資金繰りD-Iのマイナス幅が拡大（悪化）する見込み。マイナス幅が縮小（改善）する項目は無い。

新型コロナウイルスが5類になって、人の動きは良くなったが、物価高騰による購買意欲が低下との報告有り。

【製造業】

業況D-I、売上高D-I、採算D-I、従業員D-Iは前回に比べてマイナス幅が縮小（改善）している。仕入単価D-Iと資金繰りD-Iは前回に引き続き▲100%（全事業者が悪いと回答）。今後3カ月の先行き見通し、業況D-I、売上高D-I、採算D-I、仕入単価D-I、資金繰りD-Iは▲100%（全事業者が悪いと回答）。原油価格高騰による価格の上昇が止まらないと報告有り。

【サービス業】

業況D-I、売上高D-I、採算D-I、資金繰りD-Iは前回に比べてマイナス幅が拡大（悪化）している。今後3カ月の先行き見通し、業況D-I、売上高D-I、採算D-I、仕入単価D-I、資金繰りD-Iは▲100%（全事業者が悪いと回答）。生成AIの活用によるニーズの変化が起きているとの報告有り。

【飲食・宿泊業】

唯一業況D-Iがプラスを示している業種。当業種では仕入単価D-Iのみがマイナスで他の項目はプラスがゼロを示している。今後3カ月の先行き見通しの業況D-I、売上高D-I、採算D-I、資金繰りD-Iは悪化する見込み。仕入単価、人件費は高騰してい